

165
444

安藤龜五郎校閱
井水兼藏編纂

微敷法令 完

(非賣品)

特 25 02 025
37 68 65
02 025

徵發法令

凡例

- 一 本編ハ縣廳郡役所町村役場等ニ於ケル當務者執務ノ便ニ供センカ爲メ特ニ編纂印刷シタルモノニシテ一般發賣ノ目的ヲ以テ發行シタルモノニアラス
- 一 本編ハ明治廿八年二月二十日現行ノ官令ニ就キ加除修正ヲ加ヘタルモノナリ
- 一 改正及廢止ニ係ル條項ハ煩雜ヲ避ケンカ爲メ特ニ其年月日ヲ記載セス
- 一 備指令及各條項ニ關係ヲ有スル訓令等ハ各其條項ノ次ニ掲載シ以テ閱覽ニ便ナラシム

明治廿八年二月廿日

編者誌

徵發法令

目錄

- 一 戒嚴令
- 一 太政官布告第三十七號
- 一 徵發令同指令共
- 一 徵發事務條例指令照會回答共
- 一 徵發物件調查梗概
- 一 徵發事務取扱手續
- 一 大分縣訓令甲第五十四號
- 一 大分縣訓令甲第五十五號
- 一 徵發馬匹事務細則
- 一 大分縣訓令第三十四號
- 一 臨時車輛徵發手續
- 一 徵發豫定書
- 一 町村徵發豫定概則

登 四 全 一 四 五 六 全 全 八 全 八 九 丁
 八 八 一 七 七 一 七 七 七 七 七 九 四
 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁

徵發法令

○戒嚴令 明治十五年八月五日
〔太政官布告第三十六號〕

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰事若クハ事變ニ際シ警戒スヘキ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒スヘキ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ノ時機ニ應ジ其要スヘキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時若クハ戰時ニ際シ警備所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊ニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰時上臨機ノ處分ヲ要スルトキハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮守府所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス

第七條 戒嚴ノ宣告ハ爲シタル時ハ直ニ其狀勢及モ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申スルコトヲ得

第八條 戒嚴ノ宣告ハ該ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條 臨戰地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スルモノトス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告ヲ

受テ其職務ヲ行フコトヲ得

第十條 戒嚴ノ宣告ハ該ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第十一條 戒嚴ノ宣告ハ該ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第十二條 戒嚴ノ宣告ハ該ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第十三條 戒嚴ノ宣告ハ該ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第十四條 戒嚴ノ宣告ハ該ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第十五條 戒嚴ノ宣告ハ該ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

ニ時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フヘシ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ件ヲ委スルモノトス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フヘシ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衛ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏濫職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通陸斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衛ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸權ヲ執行スルノ權ヲ有ス

但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

第一 集會若シハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト

第二 軍需ニ供スヘキ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アルトキハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押收スルコト

第四 郵電電報ヲ阻礙シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルコト

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スルコト

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢査スルコト

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アルトキハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

第三十七號 明治十五年八月五日
太政官布告

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

●徵發令 明治十五年八月十二日
太政官布告第四十三號

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及行軍ノ際ハ本條ニ準ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鐵道司令官及鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及航海ノ艦隊司令官

又ハ艦長

第四條 徵發スヘキモノノ種類ニ依リ徵發區ニ准ズ

一 第十二條第一項ハ 府縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區

三 第十二條第四項以下各項及第十三條各項ハ 町村

四 船舶會社所有ノ船舶及鐵道會社所有ノ機車ハ 會社

●鳥取縣 六月十七日

第二條 本令第四條第三項ノ徵發區ハ行政區畫(數郡ニ一郡長ヲ置キ數町村ニ一戸長ヲ置クノ類)ヲ指シタルモノニ非スシテ郡區町村ノ負擔ニ候哉

指令 七月七日 數郡ヲ合シテ一郡長ヲ置キ數町村ニ一戸長ヲ置キタルモノハ一郡又ハ一町村ト見做シ取扱フヘシ

第五條 徵發スヘキモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

●和歌山縣 六月十六日

令第五條ニ徵發スヘキモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ルトアレド同第九條供給時期會違

ヒ他ノ方法ヲ以テ調達スルルル及條例第九條ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルルル並ニ同第三十五

條宿舎ニ附帶スル食飼等ハ必ズモ本條ニ據ラサル儀ニ候哉又ハ條例第三十五條ノ如キ該徵

發區内ニ於テ供給ニ堪ヘサルルル直ニ條例第十二條ニ據ルヘキ哉

指令 八月二日 前段同ノ通後段條例第三十五條ノ協合ハ直ニ同第十二條ニ依ルルル及

●神奈川縣 十二月五日

徵發令第四條第三項ニ揭示アル町村トハ一町村ヲ指示セラレタルモノニシテ二三村乃至四

五村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ素ヨリ一徵發區ト雖見做筋ト相違居候處

本年九月八日發兌官報第六拾號司指令欄内ヲ閱スルルル其聯合村一戸長役場ノ管理ニ屬スルルル

ハ一村ト同視シ一徵發區トナスヲ得ルルヤノ義和歌山縣同ニ伺之通ト御指令アリ果シテ然ルル

ハ其聯合町村ニシテ一町村ニ於テ現在スル供給物即宿舎厨圍材料器具ノ類モ其聯合セル故ヲ

以テ他ノ町村ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルヲ得サル義ニ有之候相見、前條第四條第三項(第十二

條第四項以下各項及第十三條各項)町村トアル名郡ヨリ生ズル同五條ノ明文ハ徒文ニ屬ス

五

モノ、如ク被存候得共抑同縣へ御指揮ノ義ハ一戸長役場ノ管理ニ属スル聯合町村ニシテ縦令ハ其經濟ヲ共ニシ町村會モ俱ニ開設スル如キ其名ハ甲乙町村ニシテ其實一町村ヲ爲スノ類ニ適用スヘキ義ニシテ假令一戸長役場ノ管理ニ属スルモ各其經濟ヲ異ニシ全ク甲乙町村ヲ爲スノ類ハ前段見解ノ通處分候儀ト心得可然哉

指令十月十六日 年 伺之趣數町村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ属スルモノハ經濟ヲ共ニスルト否トニ拘ハラス一徵發區ト見做スヘク其徵發物件ハ徵發令第五條明文ノ通其徵發區内ノ町村ニ現在スルモノニ限リ候義ト可相心得候事

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付スヘシ第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナシ其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定スヘキモノトス
福岡縣同 七月十八日 年

徵發令第八條ニ依リ便宜ノ方法ヲ制定スル時ハ其便宜方法ノ爲メニ費用ヲ要スル場合假令ハ數十石ノ米麥ヲ徵發セラル、ニ當リ迅速其供給ヲ完全スル爲メ時價ノ平均價ヨリ貴キ時ト雖也米麥商一人若クハ二人ニ賦課シテ供給セシメ時價ノ貴キカ爲メニ蒙リタル損失ハ徵發區ノ負擔トシテ之ヲ辨償スル等ノ費用ノ如キモノハ全令第三十條ニ云フ所ノ輸送費ノ外ニ徵發區内ニ賦課シ得ル幾ト相心得可然乎果シテ然ラハ其賦課額ヲ急納スルモノアリタルハ輸送費全權處分取計可然乎

指令十月十八日 年 伺ノ趣平均價ト時價トノ差額辨償ノ義ハ徵發令第八條ノ例ニ從ヒ地方ノ便宜ニ依リ豫定シタル方法ニ由リ一定スヘキモノニシテ其費用ヲ徵發區内ニ賦課スルモ不苦其費

用ノ急納者處分ノ義ハ伺ノ通り

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲スヘシ

和歌山縣同 十月十六日 年
令第九條他ノ方ヲ以テ調達ノ爲メ特ニ生シタル費用ニシテ條例第十五條懲期ノ事由正當ナルハ條例第四十條ト同シク該徵發區ノ負擔タルヘキ哉
指令十月十六日 年 伺之通
指令八月二日 年

新潟縣同 十月十六日 年
本令第九條徵發ヲ課セラレタルモノ中畧他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシムトアリ右等場合アリ本人費用ノ辨償ヲ拒ム者アルハ如何ナル法ニ依テ取立可然哉
指令十月十六日 年
指令八月十四日 年 本年布告第三十一號ノ通

●(參照)

大政官布告第三十一號 明治十六年八月八日
徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ急納者ハ明治十年十一月第七十九號布告 地租不納者ニ依リ處分スヘシ但財産公賣ノ際買受望人ナキハ徵發區ニ没入シ不足金アルハ其區ノ損失ニ歸ス
右費用ニ關スル處分ニツキ不服アルモノハ明治十五年五月第廿二號布告 課税ニ不服アルモノ處分規則ニ依ルヘシ

令第十二條第三項八夫ノ儀ハ同事務條例第廿三條第二項ニ負擔ニ係ル業牀ヲナスモノト有之然ルニ同シク負擔ニ係ル業牀ヲナスモノト雖ヒ人夫不適當ノ業牀往々有之其區分無之テハ實際差支可有之ニ付右八夫ハ農夫土方車夫需人足或ハ行商等ノ荷ヒ商人等八夫ノ力役ニ可堪業牀ノ者ヲ以テ致認定可然哉

指令十六年 何之通

三月九日

第十三條 戰時若クハ時變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發スヘキモノ左ノ如シ但平時ノ演習及行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一 洗船所ノ工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二 職工礦夫洗濯人ノ類

三 被服器具草鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ細帶具

四 水車搗春ノ類

五 病院

●福岡縣 十六年

四月四日

令第十三條第五項病院ハ戰時若クハ事變ニ際シ徵發可相成モノニ有之候處同令第十五條第七項ノ如ク等シク病院ハ徵發ノ免除ヲ受クヘキモノニ有之右ハ官立公立或ハ私立等ニ依リ其區別相立タルモノニ候哉果シテ然ラハ夫々種別御明示相成度此段相伺候也

指令 何之趣病院ノ儀ハ官立私立ノ區別無之儀ト可相心得事

但徵發令第十三條第五項ニ掲クル者ハ同令第廿八條之通同令第十五條第七項ハ宿舍ノ徵發

免除ニ限リ候事

●滋賀縣 十六年

二月九日

令第十三條第三項中寢具ノ儀ハ平時演習行軍ニ際シ宿舍ヲ課セラル、場合ニ於テハ併セテ供給スヘキ義務無之義ト相心得可然哉

指令十六年

三月十九日

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受クヘキモノ左ノ如シ

一 皇族所用ノ車馬

二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬

三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹

四 郵便用ノ車馬

五 公認セラレタル種牛種馬

●鳥取縣 十六年

六月廿七日

第一條 本令第十四條免除ヲ受クヘキモノ、中第三項ニ乘馬本令タル職務ニ要スル馬匹ト有之候處警察官乗用之馬匹モ含蓄スル儀ニ候哉

指令十六年

七月七日

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受クヘキモノ左ノ如シ

一 公務ニ屬スル廳署

二 皇族ノ邸宅

三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館

四 鐵道電信郵便用ノ建造物

五 陸海軍將校並ニ同等官現任ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院棄兒院

八 學校但臨戰合團地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

●群馬縣伺 十六年 二月廿八日

徵發令第十五條第五項ノ同等官トハ陸海軍ニ限り候哉

指令 十六年 七月四日 同等官ノ儀ハ陸軍ニ在テハ會計軍醫馬醫各部ノ士官以上ニシテ將校ト同等ナル者ヲ謂フ海軍ニ在テハ准將校ヲ謂フ

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニアラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲クル者ハ其差出場所ヨリ六里未満ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ヲ越ユルヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合團地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限リニ在ラス

第十九條 宿舍ノ腐狭ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定ヲ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十三條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルトアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルヲ許サス厩園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍厩園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併テ人馬ノ食飼ヲ供給スヘシ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

●滋賀縣伺 十六年 四月五日

徵發令第廿二條但書駐軍三日以上ニ至リ陸軍若クハ海軍自辨ノ場合ニ於テ馬匹ニ要スル喰料寢具等ノ徵發區ハ別段明條モ無之右ハ本令第十二條第一項ニ包含スルモノト相心得可然哉

●滋賀縣伺 十六年 二月九日

令第廿二條但書駐軍三日以上ニ至リ陸軍若クハ海軍自辨ノ場合ニ於テハ宿舍ニ於テ食器等ヲ供給スルノ義務無之議ト相心得可然哉

●和歌山縣伺 十六年 二月十六日

令第廿二條廿三條人馬ノ食飼ハ即同第十二條第四項第六項ニ包含シ該賠償方ハ令第三十九條ニ包含スル義ニ候設條例第三十三條ニ室內所要ノ慣用具ノミヲ掲ケ該食飼ニ付別段明文ナキヲ以テ疑ニ屬シ候

●和歌山縣伺 十六年 八月二日

指令 十六年 八月二日 伺之通但令第十二條第六項ニ係ルモノハ同第四十一條及ヒ條例第三十八條ニヨリ賠償ス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併テ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニヨリ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ膠船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル機車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合國地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルニトテ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

內務省訓第一四四號 明治廿六年二月廿七日

〔廿六年三月六日〕

〔大分縣訓令甲第二十二號〕

徵發令ニ依リ府縣郡市町村ノ徵發區ニ於テ負擔スヘキ費用ハ市制町村制ヲ施行セシ市町村ニ在テハ各其市會町村會ノ議定ニ付シ郡制ヲ施行セシ郡ニ在テハ其郡會ノ議定ニ付シ府縣制ヲ施行セシ府縣ニ在テハ其府縣會ノ議定ニ付スヘキ義ト心得ラルヘシ

新潟縣訓 二月廿一日

令第三十條ニ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務云々ト有之然ルニ人夫及ヒ牛馬

等差出場所ニ至ル旅費若クハ食費等モ該條ニ準シ賠償相成ヲサル儀ト心得可然哉

指令 三月廿七日 同ノ通

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルハ半年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

群馬縣訓 二月廿八日

令第三十一條賠償金延滞ノ利子ハ日割ナル乎又三ヶ月ヲ越ユルトハ滿三ヶ月ナルヤ

指令 十六年 七月四日 利子ハ日割ヲ以テ算シ三ヶ月ハ月ヲ以テ算ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用済引渡ノ後左ノ期限ヲ越ニ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

群馬縣訓 二月廿八日

令第三十三條第二項評價委員ノ告示スル時日トハ其都府評價委員ニテ時日ヲ定メ持主若クハ

操業者ハ告示スル儀ニ候哉

指令 十六年 七月四日 同之通

和歌山縣訓 二月十六日

令第三十三條毀損ノ物件若シ同第十二條第二第六第七諸項ノ屬具ニ係ルハ條例第二十六條

ニ准シ該賠償ヲ請求スルヲ得サル儀ニ候哉

指令 十六年 八月二日 令第三十三條ニヨリ請求スルヲ得

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ

定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トテ各個ニ分別シテ徵用シタルモハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルモハ第三十二條ノ例ニ拘ラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルモハ其金額ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルモハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

- 一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃
- 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルモハ其乘載量五分ノ三ニ滿テヨル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テタルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃
- 三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ヲキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊賃費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一月ニ各船舶買入代價ノ六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ

損料トス但船橋及ヒ艀船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代

價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキ

ニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ

賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルモハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルモ

ハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノ

ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ

ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ル

モノハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄リニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書

ヲ出シタルモハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

●徵發事務條例 明治十五年十二月十八日
太政官布達第二十六號

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受クヘキ日時ヲ豫定

シ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スル

コトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令官ハ時機

ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲ク

ル特命司令官艦隊司令官分遣隊長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ

師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ

其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長

トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若ク

ハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發着ノ地ヲ異ニスル

キハ往還中ニ限リ其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶

長及ヒ證人二人其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシムヘ

物品營業者ノ内ヨリ戶長ノ撰定スルモノ

●山口縣 明治十六年
四月十一日

徵發事務條例第八條中割註ニ其町村内ニ住スル親族云々ト有之候處其町村内ニ同營業者及親

族等無之場合ニ於テハ如何取計可然哉

指令 七月三日

戶長ニ於テ他ノ相當ト認ムル者ヲ撰定シ証人トナス可シ

第九條 徵發ヲ課セラレタル者ハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工

作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ

從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應スヘキ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付

スヘシト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡

區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付スヘキモノヲ町村ニ付シ店長ニ付スヘキモノヲ船長ニ付スルコトヲ

得

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵

發スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領証票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ店長ニ

其旨ヲ通知スヘシ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限リ場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ

得

●大阪府 明治十六年
三月七日

徵發事務條例第十條前(前)臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ附
スヘキモノヲ郡區ニ云々トアリ此場合ニ於テハ郡區長ハ府知事戸長ハ郡區長船長ハ店長ノ權
ヲ有スルモノト相心得可然哉

指令明治十六年
五月三日

徵發事務條例第十條ハ時機切迫ニ際シ臨機ノ所分ヲ示シタル者ニシテ其權限ニ於テハ平常ニ
異ナルコトナシ

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受クヘキ官憲ニ
報告スヘシ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ
其ノ賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス
可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトア
ル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シ
テ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡
區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

●福岡縣同 明治十六年
二月十三日

徵發ノ賦課ハ徵發事務條例第十二條第二項及ヒ第十三條ニ據レハ府知事縣令ハ郡區長ニ郡區
長ハ戸長ニ命令スヘキ順序ナルカ如クナレトモ時宜ニ依リ此順序ヲ離レ徵發供給スルモ不苦

哉

指令明治十六年
三月二十七日

適宜可取計事

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定スヘ
シ

第十五條 徵發ヲ課セラルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シ
ト雖正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限リニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲グル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製スヘシ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルト
キハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於
テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲ク
ルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付スヘシ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲グルモノヲ宿泊セシメテ連日使
用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲グルモノ船及ヒ船
橋ヲ除ク
ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付スヘ
シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲グルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其ノ物品ノ營業者ヲ先トシ尙
果完全セザルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其ノ賦課ニ就テハ其ノ地方及ヒ所有者ヲシテ困
乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其ノ分量ハ其ノ地運送

ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之レヲ定ム可シト雖トモ此ニ其ノ最下限ヲ定ムルコト左ノ如キキ算定ス可シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出ヌヘシ

鐵道局長及鐵道會社長ハ陸軍省ヨリ送附スル所ノ雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送附スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送附スヘシ

第二十二條 削除

第二十三條 削除

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ三ヶ年毎ニ附錄第三號二二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ

明治廿三年九月十九日 大分縣訓令甲第五十五號

陸軍省訓令甲第十五號 明治廿三年九月十九日

今般勅令第九十六號ヲ以テ徵發事務條例第二十四條改正ニ依リ三年毎ニ徵發物件表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ陸軍省ニ送付スルハ本年十二月調ヲ以テ第一回トシ二十五十二月調ヲ以テ第二回トシ自後之ニ準スル儀ト心得ヘシ

但條例第二十一條ニ依リ郡區長ニ於テ製表ノ儀モ毎年調製ヲ要セス本文同様其儀ト心得ヘシ

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ附錄第五號一二ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ニ送付シ管内ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送付スヘシ但シ海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直ニ送付セシムルコトヲ得

第二十六條 徵發令第十二條第六項第七項ニ掲グルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給スヘキモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲グル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ヌ又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ヌ

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貨廩等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲スヘキモノヲ概定スルコト左ノ如シ

- 一 解 署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
- 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋
- 三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室
- 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室
- 五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名
七 徴發ニ應シタル人員三名

一疊乃至一疊半
二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徴發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルルハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ

徴發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徴發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給スヘキ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以内ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一葉漬物 午飯一葉漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝秣藪五百目 晚藪五百五十目 夕大麥二升

秣藪五百目 晚藪二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藪一貫目 晚藪五

百目

小麥ヲ大麥ニ換算シ秣藪ニ代用スルトキ 朝小麥一升晚藪一貫目 晝小麥五合 夕小麥

一升五合晚藪二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ換算シ秣藪ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升晚藪一貫目

晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升晚藪二貫目

寢籠ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徴發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ價用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭 每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徴發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徴發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徴發ヲ課セラレタルモノ 公有家屋 寺亦同シ 食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供

給ヲ爲シ能ハサルノ証アルルハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル狀若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人

ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ準ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶

長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ準シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明

スルハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定量ナキ船舶ヲ徴用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルハ陸海軍官憲

ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徴用シタルル亦同シ

第三十九條 徴發物件ノ差出場所ハ各徴發區内ニ設クルヲ定例トス

但時宜ニ依リ徴發區外ニ設クルヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徴發區ハ徴發令第三十條ニ從ヒ徴發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ

爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キモノトス

但差出場所ヲ徴發區外ノ地ニ設ケタルル其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ

第四十一條 郡區長ハ徴發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシムルカ爲メ該郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜

ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

● 神奈川縣 二月二十四日

徴發事務條例第四十一條ニ郡區長ハ〔中〕組合町村ヲ定ムルヲ得ト有之右第四十一條ノ精神ハ

徵發ニ應スルノ便法ヲ示サレタル迄ニシテ同條例第二十一條ニ依リ郡區長ノ調製スヘキ物件表ハ其組合町村ノ甲乙丙郡區ニ跨ルニ拘ラズ其所管郡區長ニ於テ各自ニ表中ニ掲載可致儀ト心得可然歟且右組合ヲ定メタル時ハ豫テ其旨御省ヘ御届可致儀ニ候哉

指令 十六年 三月三日 伺之通(但組合町村ノ儀ハ届出ルニ不及候事)

●和歌山縣伺 十六年 二月十六日
第一 條例第四十一條ニ隣接郡區長ハ人馬供給ノ便宜ヲ圖リ二郡區ノ間ニ組合町村ヲ定ムルヲ得ル儀ニ候處若シ一郡區内ニ在テ總テノ便宜ニ依リ豫メ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一徵發區トナスモ妨ナキ哉

指令 十六年 八月二日 雞鷲届

●群馬縣伺 十六年 二月廿八日

同例第四十一條中近傍町村ヲ適宜ニ割合云々ト有之然ルトキハ其便宜ニ依リ他郡又ハ隣縣ニ跨ルモ差支ナキ儀ニ候哉

指令 十六年 七月四日 一縣内ニ限ル

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲グルモノアルキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツヘシ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載スヘシ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書

ノ違算若クハ不台式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償スヘキモノハ其半額ヲ給ス

●滋賀縣伺 十六年 四月五日

徵發事務條例第四十五條日割ヲ以テ賠償スルト里程ニ應シテ賠償スルトノ區分ノ儀本年二月九日付庶甲第二九號ヲ以テ伺候處伺之通但行程六里ヲ以テ一日トシ賃金ヲ給スルモノト御指令有之右ハ六里未滿ト雖モ三里以上ハ一日分ヲ給シ三里未滿ハ其半日分ヲ給セラルヘキ儀ト相心得可然哉

指令 十六年 十月四日 終日若クハ連日使用スルトキハ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ其使用六里未滿ト雖モ一日厘切ノ平常賃價ヲ以テ賠償シ其他ハ使用ノ里程ニ應スル平常賃價ヲ以テ賠償スヘシ

●滋賀縣伺 十六年 二月九日

徵發事務條例第四十五條第一項ニ徵發令第十二條第二項及第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償スルト有之本條里程ヲ計算スルハ差出場所ヨリ使用セラレタル先キ迄ヲ計算スヘキ儀ト相心得可然哉果シテ然ラハ其里程ニ應シテ賠償スルノ法ハ如何相心得可然哉
前條第二項ニ若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルキハ日割ヲ以テ

賠償スヘキモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償スヘキ者ハ其半額ヲ給ストアリ本條賠償スル區分ハ營ヘハ六里未滿ノ地ニ使用ノ目的ヲ以テ徵發セラレタルモノハ里程ニ應シ其半額定實金ヲ給シ終日若クハ連日使用又ハ六里以外ノ地ニ使用ノ目的ヲ以テ徵發セラレタル者ハ五割ヲ以テ其半日分ノ即定實金ヲ給セラルヘキ儀ト相心得可然哉

指令十六年三月廿九日
第一項伺之通

(但行程六里ヲ以テ一日トシ實金ヲ給スルモノトス)

第二項伺之通

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作り供給者ノ請求金額アルモノハ之ヲ添フ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記スヘシ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲グル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

●群馬縣伺十六年二月廿八日

徵發事務條例第四十八條ニ據リ假令ハ七日期限内三日間ヲ經タル後變災厄難ニ罹リタル者アルトキハ前ノ三日間ハ除却シ其災厄ヲ免レタル日ヨリ更ニ起算シテ可然儀ニ候哉

指令十六年七月四日 伺之通

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號離形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

●埼玉縣伺十六年一月十七日

徵發事務條例第四十九條ニ徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號離形ニ依リ調製云々ト有之候處右ハ其品ニ依リ價格上中下ノ差等モ有之儀ニ候得ハ該差等アル品ニ限リ凡テ中等ノ價位ヲ以テ三ヶ年ヲ平均致シ候儀ト相心得可然哉

指令十六年二月八日 伺之趣價格等差有之物品ハ上中下三等ニ區分シ取調候議ト可相心得事

●愛知縣伺十六年二月十二日

徵發事務條例第四十九條ニ徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號離形ニ依リ調製云々ト有之依テ管内取調候處市場ト唱フル箇所ニシテ附錄第七號離形中記載セル物件ヲ取扱フモノ無之

●市中九幡湊ノ地ヲ以テ市場ニ代用シ價表取調候議ト相心得可然哉

指令十六年二月廿二日 伺之通

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ價價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之ヲ爲シ臨時ニ騰貴セサル以前ノ價價ヲ言フ徵發令中平常ノ價價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償スヘシ

第五十三條 徵發令第四十二條中航泊賃費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルモ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルモ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルモ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價所ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ 若シ熟達シタルモノナキトキハ他クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス 町村ノ住民ヲ用ニルモ妨ケナシ 二名若シ鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍

若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス 第五十六條 評價委員ニ選用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ選舉ス可キモノトス

其選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス 第五十七條 其選舉セラレタルモノハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給

ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ通達スヘシ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルモハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルモハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ
一 評價ノ事項及ヒ事由
二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リテ歟又ハ實測シタル歟金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ 其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ程度分ニ止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ 植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應ジ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永在ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルモハ其損害ノ收實ニ止マルト 枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄第一號ノ一

徵發書

一宿舎 麻舎用 將官幾人 上長官幾人
士官幾人 下士幾人 兵 卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用 幾匹分

一腕圍 右、、、

一倉庫 幾坪

一船 幾艘

右、、、

一何々、、、

右、、、

前書ノ通徵用候條其町(村)ニ於テ遲滞ナク供給可致事

年月日 何々長 官 姓名 名印

某府(縣)某郡(區)
某町(村)戸長役場宛

備考 徵發書ノ料紙ハ美濃縣紙タル可ヘシ

附錄第一號ノ二

徵發書

一人夫 幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一駄馬 幾匹 馬士共

右内

幾匹、、、

幾匹、、、

一何々、、、

右内

一何々、、、

右内

一何々、、、

前書ノ通徵用候條其郡(區)ニ於テ遲滞ナク供給可致事

年月日 何々長 官 姓名 名印

某府(縣)
某郡(區)役所宛

附錄第一號ノ三甲

徵發書

一 漁船

船名

一 西洋形風帆船

船名

右某月某日ヨリ借切徵用候條某港ニ於テ遲滞ナク供給可致事

年月日

何々長

官 姓 名 印

某會社某地店長宛

附錄第一號ノ三乙

徵發書

一 將校並同等官

幾名

一 下士卒並同等官

幾名

一 馬

幾匹

一 車

幾輛

一 荷物畧計

幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ又ハ某社所有ノ何號船ヲ徵用シ某月某日某港出帆ニ某

港ニ運送爲致候條遲滞ナク供給可致事

年月日

何々長

官 姓 名 印

某會社某地店長宛

附錄第一號ノ四

徵發書

一 上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一 中等

幾名内、、、

一 下等

幾名内、、、

一 馬

幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一 車

幾輛内幾輛ハ、、、

一 荷物畧計

幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ通常(特別)運車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地ニ運送候條遲滞ナク供給可致事

年月日

何々長

官 姓 名 印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄第一號ノ五

徵發書

一玄米 幾百石
 一精米 幾拾石
 一薪 幾貫目
 一何々
 一何々

右徵用候條某月某日限リ供給可有之事
 年月日

某府(縣)宛

何々長

官 姓 名 印

附錄第一號ノ六

徵發書

一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍
 右某月某日演習ノ爲メ徵用候事

年月日

何々長

官 姓 名 印

某町(村)戸長役場宛

附錄第二號ノ一

受領証票

一宿舍 辦署用 將官幾人 上長官幾人
 士官幾人 下士幾人 兵卒幾人
 右、某月某日、ロリ某月某日迄徵用

一厩園

幾匹分

右、

一倉庫

幾坪

右、

一舟船

幾艘

右、

一何々

右、

前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官 姓 名 印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

備考 受領証票ハ總テ存留証票ノ式タル可シ

●山口縣 十月十六年
 四月十一日
 徵發條例附錄第二号ノ一表備考中存留証票式未タ相見ヘス右ハ如何相心得可然哉又假受領証
 ナ交付相成場合ニ於テモ總テ此式ニ依ルヘキ旨ヲ示サレタル儀ニ有之哉候
 指令 十六年 存留証票ハ一葉ノ証票ニ受領スヘキ物件ヲ複記シ其中中央ニ契印シテ之ヲ折半シ
 七月三日 其一ヲ官ニ留メ其一ヲ交付スルモノニシテ假受領証モ亦此式ニ依ル

附錄第二號ノ二

受領証票

一人夫 幾人
 右内 幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄微用
 幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間微用
 一駄馬 幾匹 馬士共
 右内 幾匹、
 幾匹、
 一何々 何、
 右内 何、

一何々
 右内
 何、
 前書ノ通微用候也

年月日

何々長

官 姓名印

某府(縣)

某郡(區)役所宛

附錄第二號ノ三甲

受領証票

一漕船 船名
 一西洋形風帆船 船名
 右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切微用
 前書ノ通微用候也
 年月日

何々長

官 姓名印

某會社某地店長宛

一下等
 一馬
 一車
 一荷物畧計
 右ハ某月某日時通常(特別)汽車徵用
 前書ノ通徴用候也
 幾名内、
 幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄
 幾輛内幾輛ハ、
 幾輛内幾輛ハ、

年月日

何々長

官 姓 名 印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄第二號ノ五

受領証票

一玄米
 一精米
 一薪
 一何々
 一何々
 前書ノ通徴用候也
 幾百石
 幾拾石
 幾貫目

附錄第二號ノ三乙

受領証票

一將校並同等官
 一下士卒並同等官
 一馬
 一車
 一荷物畧計
 右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徴用
 前書ノ通徴用候也
 幾名
 幾名
 幾匹
 幾輛
 幾輛

年月日

何々長

官 姓 名 印

某會社某地店長宛

附錄第二號ノ四

受領証票

一上等
 一中等
 幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄
 幾名内、

年月日

某府(縣)宛

何々長

官姓名印

物産收穫高

明治何年調

何府縣

何郡					何市	何市				郡市	
計	何村	何村	何町	何町		計	何區	何區	何區	何區	町村
									三五	一〇石	玄米
									一〇	五石	大麥
									七	一〇石	小麥
									六〇	八石	裸麥
									二九	二石	鹽
										八〇石	味噌
									三六	石	醬油
									三二	七石	澁物
									五八	三石	梅干
											秣
											藪

- 八 製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラズ總テ掲クヘキモノトス但官立ニ係ルモノハ官解ノケ數ニ記入スヘキモノトス
 - 九 水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗春スルケ數ヲ記入スヘキモノトス
 - 十 病院畜内軒數ハ病院内ニ病室幾棟數アルモノヲ分別セス一病院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス
 - 十一 日本形船舶畜内舢舨小廻ノ書ハ日本形船舶五十石未満及倉庫船水田耕作用船及水災豫備船ヲ算入シ汽船ニ非ラサル西洋形船舶二十噸以上ハ五十石以上ノ書ハ二十噸未満ハ舢舨漁小廻ノ書ハ朱書列記スヘキモノトス但游船渡船橋用船ハ表上スルニ及ハス
 - 十二 醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從ヒ記入ス職工ハ他ノ職工ヲ混入セス表式ニ記載シタル職工ニ限リ記入スヘキモノトス但一名ニシテ兩業ヲ兼ヌルモノ營ヘハ木挽職ニテ舢舨ヲ兼ヌルモノハ木挽職何名内何名舢舨ト記入シ舢舨何名内ノ算入セサルモノトス又表式職工中其郡ニヤキモノハ其ナキヲ記スルニ及ハス
- 第三號ノ二
- 一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項乃至第三項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
 - 二 乘馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬馱馬耕馬ニ役スルモノト雖モ乘馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
 - 三 駕馬ハ現在駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駕馬ニ役セシモノハ除クハ現今馱馬耕馬ニ役スルモノト雖モ駕馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
 - 四 馱馬ハ現在馱馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ馱馬ニ役セシモノハ除クハ現今耕馬ニ役スルモノト雖モ馱馬ノ書ニ記載スヘキモノトス

第三號ノ三

- 一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二 玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス
- 三 漬物ハ澤庵漬ヲ記入スヘキモノトス
- 四 二樽ハ四斗入ヲ以テ計算スヘキモノトス

附録第四號ノ一

西洋形船舶器械製造修履表

道廳何(府)縣

持主	所在地名	創業年月	造船			修渠		
			第一	第二	第三	第一	第二	第三
何國何郡(區)何町(村)何番地(士)族(平民)何某	何國何郡(區)何町(村)何番地何港(河)東南西北岸	何年何月	長サ何尺	同	同	盤水上最大ノ長サ何尺	同	同
			盤水ノ廣サ何尺	同	同	渠口最大ノ廣サ何尺	同	同
			水中臺尾ヨリ滿潮面マテ深サ何尺	同	同	平時滿潮面ヨリ渠口底ニ至ル	同	何尺
			斜度一「メートル」ニ付何「ミリ」	同	同			

- 一 職工ノ數ハ場内最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ
- 一 熔鐵量ハ爐數ノ多少ニ拘ラス一回ニ熔解シ得ル量ヲ揚クヘシ
- 一 本表ニハ一回ノ熔鐵量百貫目以下ノ鑄造場ハ之ヲ掲グルヲ要セス

附錄第四號ノ三

旋盤三臺以上裝置鐵工場表

道廳(何)府縣

持主	何國何郡(區)何町(村)何番地(華)士(族)平民(何)某
所在地名	何國何郡(區)何町(村)何番地
旋盤長	何「ロート」
旋盤眞隔	何「インチ」
器械種類	蒸(水車)風車(人力)
馬力	何馬力
職工ノ數	何人

- 一 職工ノ數ハ場内最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ
- 一 旋盤(機械)ノ如キモノ(眞隔)トハ旋軸ト盤面ノ間隔即チ其處ニ廻轉スル物體ノ半徑ナリ

附錄第五號ノ一

登積噸數百噸未満汽船表

道廳(何)府縣

免狀番号	船名	方運	航港	津	所屬會社及船主
一〇二五	何丸郵船	何港ヨリ何港ヲ經テ何港迄			何國何郡何町(村)何某社
二五六	何丸旅客船	何港ヨリ何港迄			何國何郡何町(村)何某社
	何丸港内使用船	何港			何國何郡何町(村)何某社

附錄第五號ノ二

登積噸數百噸以上汽船表

道廳(何)府縣

船名	何丸	所屬會社或ハ船主	何國何郡何町(村)何番地	何々社或ハ何某
免狀番号	何	何	何	何
定 航 港	何 港 或 ハ 何 港	何 港 或 ハ 何 港	何 港 或 ハ 何 港	何 港 或 ハ 何 港
船内構造變更ノ箇所	何甲板ニ上中等客室何箇所ヲ設ク或ハ之ヲ修キ倉庫又ハ何々ニ改造ス	一晝夜ノ炭	何	何
一晝夜ノ油	何 升	何	何	何
全速力	何	何	何	何
噸	何	何	何	何
噸	何	何	何	何
噸	何	何	何	何

附錄第五號ノ三

漁船表

道廳(何)府縣

船名	何丸	所屬會社或ハ船主	何國何郡何町(村)何番地何々社或ハ何某	免狀番号	何番	定航地方事務振所	何港何郡何町(村)何番地何々社或ハ何某	登簿噸數	何噸	二五	買入代價	何	製造年月	何年何月	航路定限	外國、內國、近海或ハ平水航船	檢査年月	何年何月	檢査證書有効期	何箇	用方	郵船旅客貨物或ハ挽船	運航港津	何港ヨリ何々ヲ經テ何港迄或ハ何港何港間	定繫港	何港或ハ何灣	石炭貯量	何	一晝夜ノ費炭	何	一晝夜ノ油費	何	一晝夜ノ脂費	何	蒸溜水機械一晝夜蒸溜量	何	升	何	合	船長及運轉手定員	何	機關手定員	何	人	事務係定員	何	水夫定員	何	人	火夫定員	何	人	自餘乘組定員	何	人

附錄第六號

賠償金計算書

- 一 宿泊代 第何号証票 何拾何圓
 - 一 鹿園代 同上 何拾何圓
 - 一 駄馬何匹 同上 何拾何圓
 - 一 人夫何人 第何号証票ノ内 何拾何圓
 - 一 六里外人夫何人 同上 三日 何拾何圓
 - 一 荷積大七車何輛 第何号証票 何拾何圓
 - 一 同大八車何輛 同上 何拾何圓
 - 一 同中車何輛同小車何輛 第何号証票ノ内 何拾何圓
- 右七聯合計金何百何拾何圓賠償金トシテ御渡相成度候也

年月日

府知事(縣令)郡區長(戶長)
停車場長(船舶會社店長)

姓 名 印

何地何會計官

御 中

附錄第七號

何郡(區)何市場 平均物價表
何郡(區)何市場
何郡(區)何市場

何府(縣)

北海部郡日梓町 南海部郡佐伯町
 大野郡三重村 直入郡竹田町
 玖珠郡森村 日田郡豆田町
 下毛郡中津町 宇佐郡四日市村

第四條 町村長ハ附錄第一号表式ニ依リ營業者名簿ヲ調製シ毎年一月三十一日限リ郡長ニ差出シ
 郡長ハ之ヲ取纏リ縣廳ニ差出ス可シ

第五條 町村長ハ徵發令第十二條第二項中車輛ニ限リ付録第二号表式ニ準シ賃價雇賃借賃表ヲ製
 シ毎年三月十日迄ニ郡長ニ差出シ郡長ハ其賃金ヲ平均シ一表ニ製シ同月二十日迄ニ當廳ニ差出
 ス可シ

但本令第十二條第三項ニ係ル雇賃モ本文ニ準シ郡長ニ報告ス可シ

第六條 郡長町村長ハ徵發令第八條及同事務條例第十四條ニ依リ徵發ヲ受クヘキ物件ニ應シ供給
 スヘキ手順ヲ豫定シ縣廳ニ報告スヘシ其變更スルトキ亦同シ

但町村長ハ郡長ヲ經由スヘシ

第七條 郡長町村長ニ於テ徵發書ヲ受ケタルトハ速ニ縣廳ニ報告ス可シ此場合ニ於テハ町村長ハ
 郡長ニモ報告スヘシ

第八條 徵發事務條例第四十一條ニ依リ組合町村ヲ定メタルトハ當該郡長連署ヲ以テ縣廳ニ報告
 スヘシ

第九條 徵發物件ノ供給ヲ充補センカ爲メ徵發區ノ組合ヲ設ケ供給上障礙ナカランムヘシ

第十條 前條徵發區ノ組合ヲ設ケタルトハ便宜ノ爲メ町村長ノ内若干名ノ委員ヲ定メ其組合ニ係ル
 徵發事務ヲ幹理セシム可シ

但委員ノ撰舉及交代年限等ハ適宜之ヲ定ムヘシ其當選人名ハ郡長ニ報告スヘシ

第十一條 町村長ニ於テ徵發令第十二條及第十三條中ノ項目ニシテ總テ物件表記載外ノモノハ豫
 シ其員數ヲ調査シ置クヘシ

但徵發令第十三條第二項ニ係ルモノハ其雇賃ヲモ調査シ置クヘシ

第十二條 徵發事務條例第四十條ニ依リ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スル費用ハ其區限リ適宜ノ方
 法ヲ以テ支弁スヘシ

第十三條 徵發ニ關スル準備ノ整否及各營業者ニ於ケル賣買高等調査ノ爲メ臨時主任者派遣セシ
 ムルコトアル可シ

附錄第一號

明治何年十二月三十一日調

徵發ニ關スル營業者名簿

何町(村)役場

住所	種類	玄米	精米	麥	秣	藪	鹽	味噌	醬油	漬物	梅干	薪	炭	姓名
大字何々														何ノ某

ヲ取纏一表ニ製シ同廿五日迄ニ當廳へ差出ス可シ

第六師團徵發馬匹事務細則

第一章 總則

第一條 此細則ハ充員下令ト同時ニ徵發令第十二條第二項ニ據リ馬匹ヲ徵發シ之ヲ各部隊ニ支給スル手續ヲ規定シ咄嗟ノ際軍部及ヒ地方官衙ノ取扱フヘキ事務ニ踴躍ナカランムルヲ以テ目的ト爲ス

第二條 本則ニ於テ徵發軍區トハ第十三條ニ掲ケル徵發馬匹軍部委員ノ受持區域ヲ云ヒ徵發區トハ徵發令第四條ノ徵發區ヲ云フ

第三條 本則ニ於テ檢査場トハ軍部委員ノ出張シ馬匹ヲ檢査スル場所（徵發令ノ差出場所ニ相當ス）ヲ云ヒ集合所トハ第十四條ニ掲ケル集合所ヲ云フ

第四條 徵發令第十二條第二項ニ據リ必要ナル器具ハ馬匹ト共ニ或ハ各別ニ徵發スルコトアリ又同條第三項ニ據リ人夫ヲ使役スルコトアリ

第五條 時宜ニ依リ獸醫並ニ蹄鉄工ヲ徵用スルコトアリ又徵發令第十二條第四項及全令第廿二條ニ據リ馬匹輸送ノ爲メ宿舎及厩舎ヲ徵發スルコトアリ

第六條 徵發馬匹ハ買上及ヒ借上ノ二種トシ借上中斃死若シハ使用ニ堪ヘ難キモノハ豫定價額ヲ以テ買上ルモノトス時宜ニ依リ健馬ト雖モ借上中買上ニ變交スルコトアルヘシ

第七條 牝馬及白月毛、白細毛、白茸毛ノ如キ白毛色ノ馬匹及ヒ乘馬用馬ニ在テハ四尺五寸以下駄馬（耕馬）ニアツテハ四尺四寸以下年齢四歳未満十六歳以上ハ特別ノ時機ニアラザラハ徵發スルコトナシ

第八條 本則ニ據リ徵發スヘキ物件ニ係ル徵發書ハ總テ返信照校電報トシ師團長ヨリ左ノ例文ヲ

以テ知事若シハ郡市長ニ宛テ發送ス知事ハ之ヲ郡市長ニ郡長ハ之ヲ町村長ニ傳達スルモノトス但徵用豫定日數甲ハ三十日乙ハ十日間トス

甲 馬匹ヲ徵發ス

縣知事宛

乙 獸醫（蹄鉄工）何名ヲ徵發ス

郡市長宛

第九條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ受令ノ時ヨリ左ノ時間内ニ出發スヘキモノトス故ニ徵發命令ノ傳達受領ニ關スル信書中ニハ發送受領ノ時刻ヲ記載スルヲ通則ト爲ス

甲 徵發令第十二條第二項ニ係ルモノ 二十四時間以内

乙 徵發令第十三條第三項及同令第十三條第二項ニ係ルモノ 六時間以内

第十條 徵發事務ノ執行ハ晝夜ヲ論ヒス連行スヘキモノトス

第十一條 徵發ニ應スル八馬ノ一日行程ハ左ニ記載スル里數ヲ以テ最下限ト爲ス

甲 馬匹ヲ輸送スルモノ 拾五里

乙 第二十一條ノ旅費ヲ支給スルモノ 拾貳里

丙 單行者 拾貳里

第十二條 徵發馬匹ノ檢査徵發上ノ結約其他徵發馬匹一切ノ事務ヲ整理セシムル爲メ師團長ハ毎年徵發馬匹委員ヲ定メ其官姓名ヲ受持區域内ノ縣知事ニ通牒ス

第十三條 第六師團管内ニ於ケル徵發馬匹委員ノ受持區域及檢査場ヲ豫定スルコト左ノ如シ

區	名	縣	名	檢査場
	郡		名	一町
			村	名

第五徵發軍區											第四徵發軍區			
福岡縣		大分縣					熊本縣		福岡縣					
築	上	下	宇	大	北	大	直	阿	鞍	穗	嘉	田	仲	
城	毛	毛	佐	分	海	野	入	蘇	手	波	摩	川	津	
郡	郡	郡	郡	郡	部	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	
松	中		宇	大	日	市	玉	宮	小			香		
原	津		佐	分	杵	場	來	地	竹			春		

第三徵發軍區											第二徵發軍區			
福岡縣		福岡縣					福岡縣		福岡縣					
京	企	遠	宗	席	粕	怡	志	那	福	早	夜	下	御	
都	救	賀	像	田	屋	土	摩	珂	岡	其	須	座	笠	
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	
行	小	黑	赤	箱	德		福			甘				
橋	倉	崎	間	崎	米	永	市			木				

第廿一條 獸醫及蹄鉄工ヲ集合所若クハ検査場ニ徵用スルルハ參着ノ上陸路十里毎ニ壹圓五拾錢ノ割合ヲ以テ旅費ヲ給シ滞在作業中ハ壹圓以内ノ日當ヲ給ス蹄鉄工若シ裝鉄器具ヲ手荷物ト爲スル能ハサルハ實費ノ運搬費ヲ支給ス

第三章 地方事務

甲 調査

第廿二條 各縣知事ハ其管下各郡(市)長ニ命シ現在ノ乘馬、騾馬、馱馬(耕馬共)中軍用ニ堪ユキモノヲ豫メ選定セシメ郡(市)毎ニ町(村)ヲ區別シ(第一書式)馬匹現在表ヲ作り毎年一月末日迄ニ第六師團長ニ通牒スルモノトス但シ馬匹ノ選定法ハ第七條ニ掲クル馬匹ヲ不合格トシテ現在表ヲ調製スルモノトス

第廿三條 各縣知事ハ其管下各郡(市)現在ノ獸醫及蹄鉄工ヲ調査シ各郡(市)人名現在表ヲ造リ毎年一月末日迄ニ第六師團長ニ通牒スルモノトス(第二書式)

第廿四條 各縣知事ハ毎年三月十日迄ニ師團長ヨリ配當スル徵發馬匹配當表ヲ直チニ各郡(市)長ニ告達シ當該郡(市)長ヲシテ徵發及検査ノ準備ヲ爲サシムルモノトス

第廿五條 各郡長ハ前條ノ徵發馬匹配當表ヲ受ケレハ乘馬、騾馬、馱馬ノ種類ニ應シ其管下應徵馬匹ノ現在表ヲ編成シ「各町村馬匹」、「屬具」ニ各別ニ調製シ(配當表ヲ調製シ四月十日迄ニ當該町(村)長ニ告達スルモノトス

第廿六條 各郡(市)長ハ各町(村)ニ徵發ノ命令ヲ傳フル爲メ脚夫ヲ豫定シ置クヲ一ニ就テハ陸軍召集條例第百六十四條ヲ適用ス

第廿七條 市(町)長ハ第廿四條及第廿五條ノ告達ヲ受ケレハ其管内ニ於テ徵發ニ應スヘキ馬匹(屬具)ヲ選定シ應徵馬主ニ徵發ノ趣旨ヲ了得セシメ毎年四月末日迄ニ第三書式馬匹名簿(甲

乙)ヲ調製シ之レヲ徵發ニ備ヘ置キ其異動ハ六月十二月ノ二回修正補填シ置クモノトス

乙 執行

第廿八條 郡長ハ徵發ノ命令ヲ受ケレハ直ニ之ヲ町(村)長ニ傳達シ市(町)(村)長ハ之ヲ應徵者ニ傳達シ郡(市)(町)(村)長ハ時刻ヲ遲延セシムルノ義務アルモノトス

第廿九條 郡(市)(町)(村)長ハ徵發ニ際シ第廿五條及第廿七條ノ諸表面ヲ携ヘタル役員各二名ヲ併同検査場ニ出張セシメ徵發馬匹委員ニ届告シ始終該地ニ在テ徵發事務ヲ整理セシムルモノトス

第三十條 郡(市)長ハ合格馬匹ヲ検査場ヨリ集合所ニ牽引セシムル爲メ徵發令第十二條第三項ニ準據シ検査場附近ノ町(村)長ニ命シ馬匹ノ取扱ニ慣レタル夫夫ヲ約テ徵發馬匹ノ半數支テ準備シ置クモノトス

第三十一條 第十三條ニ掲クル各検査場ニハ左ニ記スル物品ヲ準備シアルヲ可トス
靴、履掛若干、土瓶、茶碗、手桶、柄杓、提灯、蠟燭及ヒ第四十五條ニ掲クル標札約竪一尺横四寸木標札拾枚

第四章 軍部事務

甲 準備

第三十二條 徵發馬匹委員長ハ第六師團參謀長全副委員長ハ砲兵(輜重兵)大隊長ヲ以テ之ニ任シ其管下ニ常設委員若干ヲ置キ徵發馬匹ニ係ハル一切ノ事務ヲ管理セシム

第三十三條 各検査場ニ出張セシムル徵發馬匹委員ハ各部隊長ニ於テ之ヲ任命シ師團長ニ報告スルモノトス其委員ノ組織概テ左ノ如シ但委員ノ最高級者ヲ以テ首坐トナス

一 騎(砲)輜重(兵)士官一名 獸醫一名 軍吏部士官若クハ下士一名 委員助手トシテ騎(砲)輜重(兵)下士或

ハ上等兵五名卒若干名(内鞍木工卒ヲ含有ス)但獸醫ヲ欠クハ地方獸醫ヲ使用ス又検査場ヨリ
 集会所ニ輸送スル徵發馬匹ノ監視トシテ別ニ護送兵ヲ附屬セシム其數ハ検査場ノ數ニ等シ
 第卅四條 熊本集会所徵發馬匹受授委員ハ徵發馬匹委員副長ヲ以テ委員長トシ之ニ委員及ヒ助手
 若干ヲ附屬セシム其組織概テ左ノ如シ但シ委員ノ任命ハ前條ニ準ス

輜重兵士官一名砲(輜重)兵獸醫各一名軍吏部士官若クハ下士二名助手騎(砲、輜重)兵下士或ハ
 上等兵各四名(内蹄鉄工二下)長若干(蹄鉄)冷鉄工卒若干若クハ同上ノ助手各十名

第卅五條 福岡及小倉集会所徵發馬匹受授委員ハ砲(輜重)兵將校一名宛テ首座トシ其下ニ委員及
 助手若干ヲ附ス其組織概テ左ノ如シ但シ委員ノ任命ハ前條ニ同シ

軍吏部士官若クハ下士二名宛助手砲(輜重)兵下士或ハ上等兵各二名卒各六名(内蹄鉄工一名)但
 獸醫所要ナルハ地方ヨリ徵用シ蹄鉄工ハ專ラ當該地ニ召集スル豫備後備役輜重兵蹄鉄(冷鉄)
 工卒及地方蹄鉄工ヲ使用ス

第卅六條 各検査場ニ於テ徵用スル馬匹ノ種類及屬具ハ其年度ニ於ケル師團馬匹配當表ニ規定ス
 ル所要數ヲ基礎トシ地方吏員ノ携帶セル各町、村馬匹屬具配當表ヲ願慮シテ其要數ヲ決定スル
 モトス但シ軍部出張員ノ首座ハ馬匹検査ノ狀況ニ因リ交換用トシテ所要數ノ百分ノ五以内ノ
 過數ヲ徵用スルコトヲ得

第卅七條 前條ノ過數馬匹ハ一時馬廠(小倉、福岡)ニ在テハ該地屯在ノ衛戍隊ニ繋留シ飼養交換
 ヲ負擔セシム但シ不用ト爲リタルトキハ第十七條ニ據リ解雇スルモトス

第卅八條 各検査場ニ出張セシムル委員ハ左ノ各隊ニ於テ之ヲ組織ス但軍吏部士官(下士)ハ監督
 部長之ヲ撰出スルモトス

第一 徵發軍區検査場

騎兵第六大隊ヨリ

第二 徵發軍區検査場

輜重兵第六大隊ヨリ

第三 徵發軍區検査場

砲兵第六聯隊ヨリ

第四 徵發軍區検査場

輜重兵第六大隊ヨリ

第五 徵發軍區検査場

砲兵第六聯隊ヨリ

第卅九條 徵發馬匹委員及委員ノ助手タル騎(砲、輜重)兵下士兵卒ハ徵發馬匹ノ善惡ヲ鑑別シ得
 べき技能アルモノヲ撰定シ豫メ之ヲ本人ニ告達シ置クヘシ
 第四十條 徵發馬匹常設委員ハ二月初旬師團司令部ニ會合シ本書及出師準備調査手續書ニ規定セ
 ル諸件ヲ調査スヘシ其時日ハ參謀長之ヲ告達ス但シ必要ニ際シテハ出張委員ヲ召集スルコトヲ
 得

乙 執行

第四十一條 馬匹徵發ノ命令アルトキハ出張委員首座ハ所要ノ物品ヲ携帶シ現金前受ヲナシ委員
 及助手タル騎(砲、輜重)兵下士卒ヲ引率シテ受授検査場ニ出張シ地方役員ト協議シ検査場ノ準
 備整頓ヲサスモトス

第四十二條 馬匹検査場ニ參着スルハ地方役員ヨリ馬匹名簿ヲ受領シ馬匹ハ其參着順序ニ從ヒ檢
 査ヲ行ヒ合格不合格ノ章印ヲ馬匹名簿ニ押捺シ合格馬匹ハ買上(借上)價格ニ據定買上價格ヲ定
 ヲ買上ハ左後足、借上ハ右後足ノ蹄ニ烙印(A12B12C12D12E12等)ノ如クシAハ第一

徵發軍區Bハ第二徵發軍區CDEハ第三ヨリ第五ニ至ル徵發軍區ノ符号)シ馬匹受領証票第四
 書式ノ各項ヲ記入シ其乙証票ヲ馬主ニ下附シテ地方員ニ出サシム駄鞍及ヒ屬具其他携帶品ハ獸
 鞍検査ヲ擔任スル委員助手第四十四條ニ依リ其適否ヲ検査シ合格不合格ヲ決定シ駄鞍屬具受領証
 票第五書式ノ各項ヲ記入シ其乙証票ヲ持主ニ下附シテ地方員ニ出サシム然ル後馬匹共ニ騎(砲、

輜重兵卒ヲシテ徵發人夫ヲ使用シ各集合所ニ護送セシム
但シ委員首座ハ第六書式ニ準シテ馬匹器式名簿ヲ作り全時ニ之ヲ當該集合所徵發馬匹受授委
員長(首座)ニ發送スルモノトス

第四十三條 馬匹検査ノ標準トスヘキモノ概テ左ノ如シ

一 乘馬、現在又ハ曾テ乘馬ニ役セシモノ及ヒ瀾馬、馱馬ノ中ヨリ撰用ス
二 乘馬ハ瀾馬、馱馬ヨリ採用セシモノモ亦同シニ検査ニ應ジ上中ヲ二種ニ區分ス上
三 參謀官、野戰隊副官及ヒ士官騎兵補充隊等ノ所要ニ充テ中ハ行李彈藥雜列輜重ノ監視
人留守諸隊ノ士官及ヒ監視人等ノ所要ニ充ツ

四 上中ノ種類ハ木札ニ記載シ馬頭ニ懸フ例令ハ乘上、乘中等ノ如シ但シ木札ハ縦一寸五分
幅一寸厚二分ニシテ麻紐二尺五寸ヲ附ス瀾馬、馱馬ニ在テハ瀾若クハ馱上、中、並下記載ス

五 瀾馬ハ現在又ハ曾テ瀾馬ニ使用セシモノ及ヒ馱馬中ヨリ撰用シ種類ヲ區別セシ

六 馱馬ハ凡ソ三十貫目ヲ負擔シ連日勞働ニ堪フヘキモノヲ撰用ス

七 馱馬ハ検査ノ成績ニ應ジ上中並ノ三種ニ區別シ上ハ山砲兵用銃舟、桁、板等ヲ積載シ絶テ
瀾馬モサルモノニシテ大、小架橋雜列用トナス中ハ最モ四肢及ヒ蹄ノ堅牢ナルモノニシ
テ各部隊、大小行李、衛生隊、野戰電信隊、彈藥雜列用トナス並ハ總テ普通ノ馱馬ニシテ輜
重トシテ重用トナス

第四十四條 馱鞍及ヒ器具検査ノ標準トスヘキモノ概テ左ノ如シ

一 鞍骨ハ欠損ナシテ堅牢ナルモノ

二 鞍褥ハ革、麻布製ニシテ鞍下毛布ヲ用ヒス馬背ヲ純傷セシメサルモノ

三 頭絡ハ項條、立緒、小緒ノ類麻製ノモノニシテ堅牢ナルモノ

四 轡銜ハ堅牢ナルモノ

五 牽綱ハ麻製ニシテ長サ一丈以上經三分以上ノモノ

六 鞞ハ麻製ノモノ

七 鞞ハ鞞尾、草、絨、麻布製ニシテ緒ノ堅牢ナルモノ

八 腹帶ハ麻緒ヲ以テ組織シ幅二寸八分以上ニシテ緒ノ堅牢ナルモノ

九 荷綱ハ麻製ニシテ長サ二丈四尺經四分五厘以上ノモノ

十 雨襖ハ油紙麻布製ニシテ縦七尺八寸横六尺三寸以上ノモノ但シ野戰ヲ兼用スル頭絡野戰
綱共長サ六尺六寸經四分以上及蹄鉄靈小綱鞍下毛布ノ如キハ徵發ニ應ズル能ハサルモ若
シ徵用スヘキモノアレハ前項ヲ標準トスヘシ

徵用ニ合格スルモノ左ノ如シ

第一ヨリ第十迄ノ全ク合格スルモノヲ上トス

第一、二、三、四、五、八、九ノ合格スルモノヲ中トス

第一、二、五、六、七、八、九ノ合格スルモノヲ並トス

其他若干ノ合格品アルモ徵用セサルモノトス

第四十五條 馬匹検査場ノ撰定及ヒ其準備並ニ検査手順ノ標準トスヘキモノ概テ左ノ如シ

一 馬匹検査場ハ幅十米突長サ百米以上アル平坦硬固ニシテ砂礫雜草等ナキ地面ヲ可トス

二 検査場ノ一點ニ樹蔭アルヲ可トス

三 検査場ノ一點ニ雨露ヲ凌キ徵發事務ヲナスノ場所ヲ要ス

四 検査場ノ入口ト出口ニ馬匹ヲ繋留スル多クノ樹木アル廣濶ナル場所ヲ要ス出口ニハ合格
ノ馬匹ト不合格ノ馬匹ヲ各別ニ繋留スル爲メ最モ廣濶ナル多クノ樹木アル場所ヲ要ス

五 馬匹ヲ検査場ニ牽入ル、ニハ混雜ナク地方役員ノ呼出ニ應シ入口ヨリ順序ニ検査場ノ中央ニ至リ検査ニ依テ合格不合格ヲ定メ、駄鞍及屬具ハ、駄鞍検査係ニ廻シ然ル後馬匹ヲ各其繋留所ニ兵卒ヲシテ誘導セン。

六 駄鞍及ヒ屬品ノ検査場トシテ雨露ヲ凌ク場所ヲ要ス検査場ノ入口、出口、馬匹集合所、合格馬匹繋留所、不合格馬匹繋留所、徵發馬匹事務所、駄鞍検査所、馬匹呼出所、合格馬匹蹄印押捺所、馬匹名簿受附等ニハ、白晝ハ、標札夜間ハ、提灯ヲ以テ目標トシテ指示ス。

第四十六條 徵發馬匹委員ヲ携行スヘキ物品概テ左ノ如シ

公用行李ニ、視箱屬具共ニ、朱視屬具共一、割印馬匹受領証票ニ用ユル第六師團徵發馬匹委員ト記シタルモノ一、算盤一、木印縦四分横二分不合格格ト記シタルモノ一、朱肉々池共一、馬匹受領証票、徵發令同事務條例、蹄印(O1ヨリ9迄)ABCDE五字ノ内一組、木札(徵發馬匹ノ數、提灯、蠟燭、其他半紙、郵紙、狀袋等ノ消耗品類若干)

附 則

第四十七條 徵發馬匹ノ裝蹄ハ受發委員之ヲ擔當シ集合所ニ於テ施行ス其順序概テ左ノ如シ但裝蹄所ノ設備ハ委員長監督部ト協議シ豫メ之ヲ準備ヲ爲シ置クヘシ

一 龍本徵發馬匹集合所ニ於テハ馬匹ノ各検査場ヨリ到着スル毎ニ所要部隊ノ緩急ヲ量リ馬匹ノ適否ヲ檢シ騎兵第六大隊、野戰砲兵第六聯隊、步兵第十一旅團、師團司令部及ヒ屬部、工兵第六大隊及ヒ大小架橋縱列、衛生隊、彈藥縱列、野戰病院、糧食縱列馬廠ノ順序ヲ以テ馬匹裝蹄班ニ配布シ裝蹄ヲナス以上終テ野戰豫備部隊ノ裝蹄ニ着手スルモノトス

二 裝蹄場ハ假ニ健軍集合所ニ一ヶ所、小峯原集合所ニ二ヶ所ヲ建設シ靴(日本製)ヲ徵發者ヨリシテハ新調シ數個ノ裝蹄班ヲ置キ各班ニ騎砲、輜重兵蹄鉄工(下)長若シハ熟練ノ蹄鉄

工卒一名ヲ置キ班長トシ騎砲、輜重兵蹄鉄工卒及輜重兵冷鉄工卒並ニ地方蹄鉄工若干ヲ混シ裝蹄ノ作業ニ從事セシム

三 騎砲、輜重兵蹄鉄工(下)長並ニ現役騎砲、輜重兵蹄鉄工卒輜重兵冷鉄工卒ハ原隊現在ノ馬匹ニ蹄鉄ヲ改裝スルニ要スル人員若干ヲ除キ其他ハ悉皆各自裝蹄器具ヲ携ヘ(健軍)小峯原兩集合所ニ參集スルモノトス但野戰隊並ニ野戰豫備部隊ノ徵發馬匹ハ悉皆兩集合所ニ於テナスモノナレバ騎砲、輜重兵隊ニ限リ豫備蹄鉄(冷鉄)工卒到着ノ上ハ裝蹄ヲナサル馬匹ヲ受領シ裝蹄スルモノトス

四 現役騎砲、輜重兵蹄鉄工(下)長並ニ同蹄鉄工卒輜重兵冷鉄工卒ヲ悉皆集合所ニ參集セシムト雖モ地方蹄鉄工ノ參着スルニ從ヒ漸時原隊ニ復版セシムルモノトス

五 蹄鉄(釘共)分配ノ爲メ蹄鉄分配掛下士一名ヲ置ク各裝蹄班長ハ所要ノ蹄鉄(釘共)ヲ同掛下士ヨリ受領シ各工卒ニ配與シ其消費高ヲ明瞭ナラシムヘシ但シ受領シタル蹄鉄(釘共)ノ員數ハ受領証ヲ造リ自ラ捺印シテ之ヲ分配係下士ニ交附スルモノトス

六 各裝蹄班ニ二個ノ四柱架(木造)ニテ裝蹄ノ(鉄枕及倒馬網若干ヲ準備シ惡癖ニシテ裝蹄ニ困難ナル馬匹ノ裝蹄スル爲メ建設シ置クモノトス

七 裝蹄ノ馬匹ト無裝蹄ノ馬匹ヲ各別ニ繋留スル場所ヲ定メ木札ヲ掲ケテ之ヲ識別スルモノトス

八 徵發馬匹ノ裝蹄ハ蹄鉄工卒一名助手一頭平均約四十五分トス此時間ハ釘尖ヲ直ス時間モ含入ヌ又癩難馬アルモ五十分ヲ超過スルコトナシ但此比例ハ現役蹄鉄(冷鉄)工卒及豫後備蹄鉄(冷鉄)工卒、地方蹄鉄工ヲ混用シテ作業セシムル時間トス

九 徵發馬匹ノ裝蹄ハ多クノ削蹄ヲ爲サス唯鉄ノ平面ヲ接合スルヲ度トス而シテ僅ニ釘ヲ深

(甲) 受領證票

要		馬匹ノ種類
前書之通徴用候也		検査等級
明治 年 月 日於何地検査場		
第六師團徴發馬匹委員首座		
陸軍何兵大(中)(少)尉 姓名 印		

割印

徴發馬匹受領要

番號	第A(B)號	馬主住所氏名
買(借)上月日	徴用日數	一日ノ借料
買上(豫定)價額	馬匹ノ種類	

(乙) 票證

前書之通徴用候也

明治 年 月 日於何地検査場

第六師團徴發馬匹委員首座

陸軍何兵大(中)(少)尉 姓名 印

検査等級

第五書式

徴發馬具受領要

番號	第A(B)號	持主住所氏名
馬鞍鞍褥共	頂絡	荷網
雨覆	鞅	鞞
靴	鞞	鞞

摘要

徴用月日	徴用日數	一日ノ借料	買上(豫定)價額	検査等級
------	------	-------	----------	------

(甲) 票 證

腹帶

前書之通徵用候也

明治 年 月 日於何地検査場

第六師團徵發馬匹委員首座

陸軍何兵大(中)(少)尉 姓名 印

割印

徵發馬具屬

物 發 徵				號 番
鞅	雨	荷	頭	第 A(B) 號
	覆	網	絡	持主 氏名
				徵用月日
				徵用日數
				一日ノ借料
				買上(豫定)價額
				検査等級

(乙) 票 證 領 受

件

腹帶

前書之通徵用候也

明治 年 月 日於何地検査場

第六師團徵發馬匹委員首座

陸軍何兵大(中)(少)尉 姓名 印

要

第六書式

馬 匹 界 名 簿

合 計	番 號	種 類	年 齡	毛 色	鞍 頭	絡 荷	網 雨	覆 鞅	鞅	腹 帶

前書之通及御渡候也

年 月 日

徵發物馬匹受授委員長(首座)

姓 名 印

團 隊 部 長 宛

第七書式

(ABC) 號

徵發駄鞍及屬具員數表

駄鞍 内鞍褥何枚

頭 絡

荷 綱

雨 覆

前書之通發送候也

年 月 日於何地検査場

徵發馬匹委員 官 姓 名

熊本(小倉)(福岡) 徵發馬匹受授委員長宛

●大分縣訓令第三十四號

明治廿七年五月八日

明治廿七年一月大分縣訓令第二號徵發馬匹事務細則ニ依リ馬匹ノ配當ヲ受クルモ異動ノ爲メ之ヲ充實スル能ハサル場合取扱方左ノ通り相定ム

第一條 町村長ニ於テ細則第二十五條ノ配當ヲ受ケルモ異動ノ爲メ之ヲ充實スル能ハサルハ其旨直ニ郡長ニ届出ツ可シ

第二條 郡長ニ於テ前條届出ヲ受ケタルモ更ニ之ヲ他ノ町村ニ配當スヘシ若シ他ノ町村ニ配當シ能ハサル場合ニ在テハ其旨直ニ縣廳ニ届出ツ可シ

第三條 細則第二十七條ニ依リ六月十二日ニ補填スヘキ馬匹ナキモ前條同様ノ取扱ヲナス可シ
●臨時車輛徵發手續左ノ通相定候旨第六師團長ヨリ通知有之本縣ニ於テモ該手續ニ依リ取扱フヘキ義ト心得可シ

明治廿七年十一月二十一日

臨時車輛徵發手續

第一條 車輛徵發ノ手續ハ概テ馬匹ノ徵發ニ準ス故ニ本手續中細則ト稱スルハ徵發馬匹事務細則ヲ云フナリ

第二條 車輛ノ徵發ヲ要スルモ師團長ハ其徵發書ヲ以テ各郡市ヨリ出スヘキ車數及其差出場所ヲ指定スルヲ左ノ如シ但該書ハ總テ返信照核電報トナスコト並ニ其傳達方ハ細則第八條ニ準ス
一人曳二輪荷車(一馬曳二輪荷車)若干輛ヲ徵發ス

但某市若干輛某郡若干輛差出場所ハ某地

縣知事宛

第三條 徵發命令ノ執行ハ細則第二十八條第二十九條及第三十一條ニ準ス

第四條 徵發命令ヲ受ケタル者ノ出發ハ細則第九條ノ乙ニ據リ其一日行程ハ細則第十一條甲ニ準

第五條 賠償ハ左ノ諸項ニ據リ之ヲ爲ス

一 差出場所徵發區外ニ設クル其區域外ハ里程ニ應シ一里ニ付金五錢以内ヲ給ス

二 徵發區外ノ差出場所於テ檢査等ノ爲メ車ヲ滞在セシムルハ金貳拾貳錢以内ヲ給ス

三 差出場所集会所ニ車輛ヲ牽引スル雇夫ハ一日十里請金六拾錢ヲ給シ十里未滿ハ總テ一里ニ付金六錢ノ割ヲ以テ給ス但十里未滿ト雖實際宿泊セシムルトキハ一日ノ額ヲ給ス

四 前項ノ者販路ハ一里金四錢ノ割ヲ以テ給ス但復ヒ不用ノ車輛ヲ牽引スル者ハ往路ニ等シ

第六條 徵發車輛委員長ハ輜重兵大隊長ヲ以テ之ニ任シ其下ニ全常置委員若干ヲ置キ車輛徵發ニ關スル一切ノ事務ヲ管理セシム

第七條 輜重兵大隊長ハ監督部長及彈藥大隊長ト協議シ各差出場所ニ出張セシムヘキ徵發車輛委員ヲ編成シ其首坐ノ姓名及ヒ豫定檢査日割ヲ豫メ當該地方廳ニ通報スヘシ

第八條 徵發車輛委員ノ徵發執行ハ細則第四十一條第四十二條第四十五條及第四十六條ニ準ス

第九條 徵發車輛ハ左ノ諸項ニ適合スルヲ要ス

一 車輛ハ一人曳荷車(二輪車)ニシテ構造堅固約五六十貫目ノ荷物ヲ積載シ連日使用ニ堪フル事

二 轆木ハ片轆或ハ双轆ニシテ曳綱ヲ添フル事

三 車臺ノ側木ハ櫓或ハ杉ニシテ堅固ナル事

四 車輪ハ櫓及ヒ楓製ニシテ載ト輻トノ接際十分固着シアル事

五 輪鉄ハ弛緩セシ且ツ甚シク磨滅セサルモノナル事其螺子モ同様ナリ

六 軸鐵ニハ些少ノ疵痕タモ無キ事

七 轆ハ銑鐵、楓或ハ櫓製タル事

八 輪止シ給ハ櫓或ハ鐵製タル事

九 麻製或ハ棕櫚製ノ荷綱ヲ添フル事

十 竹製或ハ鐵製ノ油壺ヲ添フル事

●大分縣徵發豫定書

第一條 徵發豫定書ハ徵發令第八條及事務條例第十四條ニ基キ陸海軍官憲ノ徵發ニ應スル實際取扱ノ標準ヲ豫定スルモノトス

第二條 徵發ヲ受タルハ縣廳内又ハ便宜ノ地ヘ徵發事務取扱所ヲ開設シ徵發ニ係ル一切ノ事務ヲ幹理スルモノトス

第三條 徵發ヲ受タルトキハ供給セシムヘキ日時ヲ豫定シ便宜ノ郡ヘ第一號若クハ第三號離形ノ賦課書ヲ發スルモノトス

但本條供給ヲ受タルトキハ第二號若クハ第四號離形ノ受領證書ヲ交付スルモノトス

第四條 前條賦課書ハ郡長ニ付スヘキモノナリト雖モ時機切迫シタルトキハ直ニ物件所在ノ町村ニ付スルコトアルヘシ最モ此場合ニ於テハ郡長ヘ報告スルモノトス

但本條供給ヲ受タルトキ亦前條但書ノ受領證書ヲ交付スルモノトス

第五條 供給ヲ受タルトキハ迅カニ徵發書ヲ發シタル官憲ヘ引渡シ受領證書ヲ領置スルモノトス

第六條 前條官憲へ引渡済ノ上ハ本令第三十一條揭示ノ如ク其時々代價支辨スヘキモノナレハ條
例第四十二條賠償ノ通知ヲ受タルルハ本令第三十四條及條例第四十九條ニ基キ條例第四十三條
ノ計算書ヲ調製シ之ニ官憲ヨリ交付ノ受領証票ヲ添ヘ本令第三十二條ニ據リ賠償方請求スルモ
ノトス

但本條賠償ヲ受タルトキハ直ニ初メ賦課シタル郡長若クハ戸長へ交付シ領收証票ヲ徴シ置ク
モノトス

第七條 徵發物件ノ不足ヲ届出タルトキハ條例第十二條第三項ニ據リ直ニ他ノ郡村へ賦課シ供給
ヲ完全セシメテ同條第二項ノ検査ヲ爲スモノトス

第八條 條例第十三條ニ基キ徵發書ヲ受タルトキハ速ニ其賦課シタル郡村名及量數等徵發書ヲ發
シタル官憲ニ報告スルモノトス

第九條 徵發物件ノ臨時輸送費ヲ要スルトキハ假ニ繰替等適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ支辨シ置クモノ
トス

第十條 前條輸送費ヲ支出シタルトキハ直ニ其金額及之ニ屬スル費用ハ縣會ノ議定ニ付スルモノ
トス

但國稅免除ノ土地ハ賦課セサルモノトス

第十一條 場合ニヨリ本令第十二條第二項物件ノ徵發ヲ受タルトキハ第五條第六條ノ例ニ準シ取
扱ヒ其賃價雇賃ノ調査ハ本令第三十五條及條例第四十五條ニ依ルモノトス

第十二條 徵發物件完了シタルトキハ費額ノ決算書ヲ作り之ヲ管内ニ告示スルモノトス

第一號

徵發賦課書

一 玄米

幾百石

一 精米

幾百石

一 薪

幾貫目

一 何々

、

一 何々

、

右賦課候條某月某日限リ某地へ供給可致候事

年 月 日

官 姓 名 印

某郡長姓名宛

又ハ

某郡某町(村)戸長姓名宛

第二號

受領証票

一 玄米

幾百石

一 精米

幾百石

一 薪

幾貫目

一 何々

、

一 何々

、

前書之通受領候也

年月日

某郡長姓名宛

又ハ

某郡某町(村)戸長姓名宛

官 姓 名 印

第三號

徵發 賦課書

一 乘馬幾匹 但 操業者及 屬具共

(操業者ト各個ニ分別賦課スルノ例)

一 乘馬幾匹 但 屬具共

一 全馬丁何人

一 駄馬幾匹 但 操業者及 屬具共

(操業者ト各個ニ分別賦課スルノ例)

一 駄馬幾匹 但 屬具共

一 全馬丁何人

一 漕馬幾匹 但 操業者及 屬具共

(操業者ト各個ニ分別賦課スルノ例)

一 漕馬幾匹 但 屬具共

一 全馬丁何人

一 馬車(人乘車)(荷馬車)(荷車)幾輛

但馬匹(操業者)及屬具共

(操業者ト各個ニ分別賦課スルノ例)

一 馬車(人乘車)(荷馬車)(荷車)幾輛

但馬匹及屬具共

一 全馬丁(車夫)何人

右之内

(差出場所ヲ指定スルノ例)

幾匹ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

(連日使用スルノ例)

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

(場所ヲ指定シ使用スルノ例)

幾匹幾人ハ某月某日時某地迄餘ハ某地迄徵用

右賦課候條期日ノ通供給可致候事

年 月 日

官 姓 名 印

某郡長姓名宛

又ハ

某郡某町(村)戸長姓名宛

第四號

受領 證 票

- 一 乘馬幾匹 但(操業者及)屬具共
 - 一 馬丁何人
 - 一 駄馬幾匹 但(全上)
 - 一 馬丁何人
 - 一 駕馬幾匹 但(全上)
 - 一 馬丁何人
 - 一 馬車(人乘車)(荷馬車)(荷車)幾輛
 - 一 馬丁(車夫)何人 但(馬匹)(操業者及)屬具共
- 前書之通受領候也

年月日

官 姓 名 印

某郡長姓名宛

又ハ

某郡某町(村)戸長姓名宛

(參照)

●町村徵發豫定概例

第一條 徵發豫定書ハ徵發令第八條並事務條例第十四條及本縣徵發事務取扱手續第六條ニ據リ陸海軍官憲及知事郡長ヨリ徵發或ハ賦課セラレタルトキ之レニ應スル便宜方法ヲ豫定スルモノトス

第二條 徵發事務所并ノ爲メ大字若クハ字内ニ徵發事務補助員幾人ヲ置キ渾テ徵發ニ關スル事務

ヲ處辨スルモノトス

但本條ノ事務ヲ執行スルカ爲要スル費用ハ町村制第六十九條末項ニ依リ支辨スルモノトス

第三條 徵發ヲ受タルトハ徵發區内便宜ノ地(徵發事務取扱所ヲ開設シ町(村)長補助員 徵發事務云フ以下補助員トス)出席シ該事務ヲ處辨スルモノトス 補助員ヲ

第四條 徵發事務ノ便宜ヲ計ラシカ爲何町村外何ヶ町村役場ハ互ニ其事務ヲ協同補助スルモノトス

但本條ハ協同補助ニ止リ其費用ハ徵發ヲ受ケタル町村ノ負擔トス

第五條 第二條補助員ハ町(村)(大字)(字)ノ内便宜町村長之ヲ定ム其任期チ四ケ年トス最モ滿期

ノ後再選スルモ妨ケナキモノトス

第六條 徵發物件ノ賦課ハ戶籍番號ノ順序ニ依リ循環賦課スルモノトス尤モ志望ノモノハ此限ニ

アラス

第七條 本令第十二條第一項第二項第三項ハ府縣郡ノ徵發區ナルモ町村ハ渾テ物件所有ノ根軸ヲ

レハ應徵ノ責メ免ル可ラサルヲ以テ平時嚴密調査ヲ遂ケ徵發ヲ課セラレタルトハ本縣徵發事務

取扱手續第四條營業者名簿及徵發物件表ニ基キ供給スルモノトス

但本條中營業者ニ於テ完全セズ他ノ者ニ向テ賦課セラル可キトモ本條ノ順序ニ依ルモノトス

第八條 本令第十二條第二項第三項ノ場合ニ於テハ町村長補助員 十人二十人五十人百人 之ヲ引率

シ徵發ヲ受タル官憲ハ引渡迄諸事幹旋スルモノトス

第九條 本令第十二條第四項宿舎範圍及倉庫ノ徵發ヲ受ケタルトキハ本令第十九條及條例第二十

九條ニ參照シ尚條例第三十條ニ基キ宿舎主任官ニ商議シ第一號宿舎ノ徵發ニ關スル物件表ニ據

リ適宜配當方幹旋供給スルモノトス

但本條ノ場合ニ於テハ條例第三十二條ニ依リ直ニ食飼ノ準備ヲ爲スヘシ
 第十條 前條宿舍ノ徵發ヲ課セラルルモノ食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲナシ能
 ハサルトキハ條例第三十五條ニ基キ該(町)(村)内ニ賦課シ之ヲ其本人ニ供スヘシ若シ公有家屋
 又ハ社寺等住者ナキ家屋ニ在テハ(町)(村)内豫メ受負人ヲ定メ置キ之ヲシテ賄ハシムルモノト
 ス

但條例第三十三條及第三十四條ノ物件併セテ供給スヘキハ勿論ト雖モ若シ不足スル場合ニ於
 テハ尚本條ニ準シ處辨スルモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ受負望ノ者數人アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ若シ受負人無之トキ
 ハ前條徵發ヲ受ケサルモノ、内ヨリ第六條ノ例ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 本令第十二條第六項船舶ノ徵發ヲ受ケタル時ハ本令第二十三條乃至第二十六條及條例
 第三十六條ニ參照シ全令第二十五條船舶表ニ基キ補助員及船舶會社ノ店長等ト與ニ幹旋供給ス
 ルモノトス

但條例第三十六條乘載人馬ニ要スル物品不足スルトキハ直ニ其所在地ニ於テ適宜處辨供給ス
 ルモノトス

第十三條 條例第十一條揭示ノ如ク徵發ノ命令ヲ受タルトキハ晝夜ヲ別タス速ニ其處辨ヲ爲シ供給
 スル者トス故ニ其處辨ノ爲メ要スル使夫ハ賦課物件ノ多少及地形等ノ便否ニ依リルモノト雖モ豫
 メ(町村)ニ於テ幾人設定シ置クモノトス

第十四條 供給ノ時期(本令第九條)ニ違フトキ正當ノ事由條例第十五條ヲ証明セサルハ直ニ條
 例第九條ニ依リ換給スヘキヲ以テ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ辨償セシムルモノトス

第十五條 本令第十條供給ヲ拒ミ又ハ供給スヘキ物件ヲ藏匿シタル時一面ハ直ニ之ヲ使用シ一面

ハ其筋ニ告發スルモノトス

第十六條 本令第三十條徵發物件ヲ差出場所へ輸送スル等ノ爲メ生シタル費用其他徵發事務處辨
 ノ爲メ要シタル費用ハ總テ町村會ノ議定ニ付スルモノトス但可成所有者ヲシテ運搬セシムルモ
 ノトス

第十七條 條例第十條ノ場合ニ於テ全條第三項ノ通知ヲ受ケタル時ハ直ニ縣廳及郡役所へ報告ス
 ルモノトス

第十八條 第四條ノ協同補助町村ハ左ノ通り

何町
何村

前書之通相違無之候也

明治何年月日

何郡
何町(村長) 何ノ誰印

〇
〇
〇

長官宛

第一號

宿舍ノ徵發ニ關スル物件表

何町村大字何々

製造所	計						
	所有者ノ姓名	居室ノ棟數	全坪數	全間數	庭園ノ棟數	全坪數	倉庫ノ棟數
公有家屋及社寺	居室坪數	間數	庭數	園坪數	倉數	庫坪數	數

家屋ノ調査方ハ徵發事務條例附錄第三號ノ一備考第八號ヲ適用ス
 本表ハ毎年十二月ニ於テ異動ノ訂正加除ヲ成スヘキ

製造所	計						
	坪數	寺院數	坪數	神社數	坪數	倉庫數	間數

明治廿八年三月廿五日印刷
明治廿八年五月廿八日發行

(非賣品)

大分縣北海部郡臼杵町三百八番地士族
當時大分郡大分町三百七拾番地寄留

編纂兼發行者

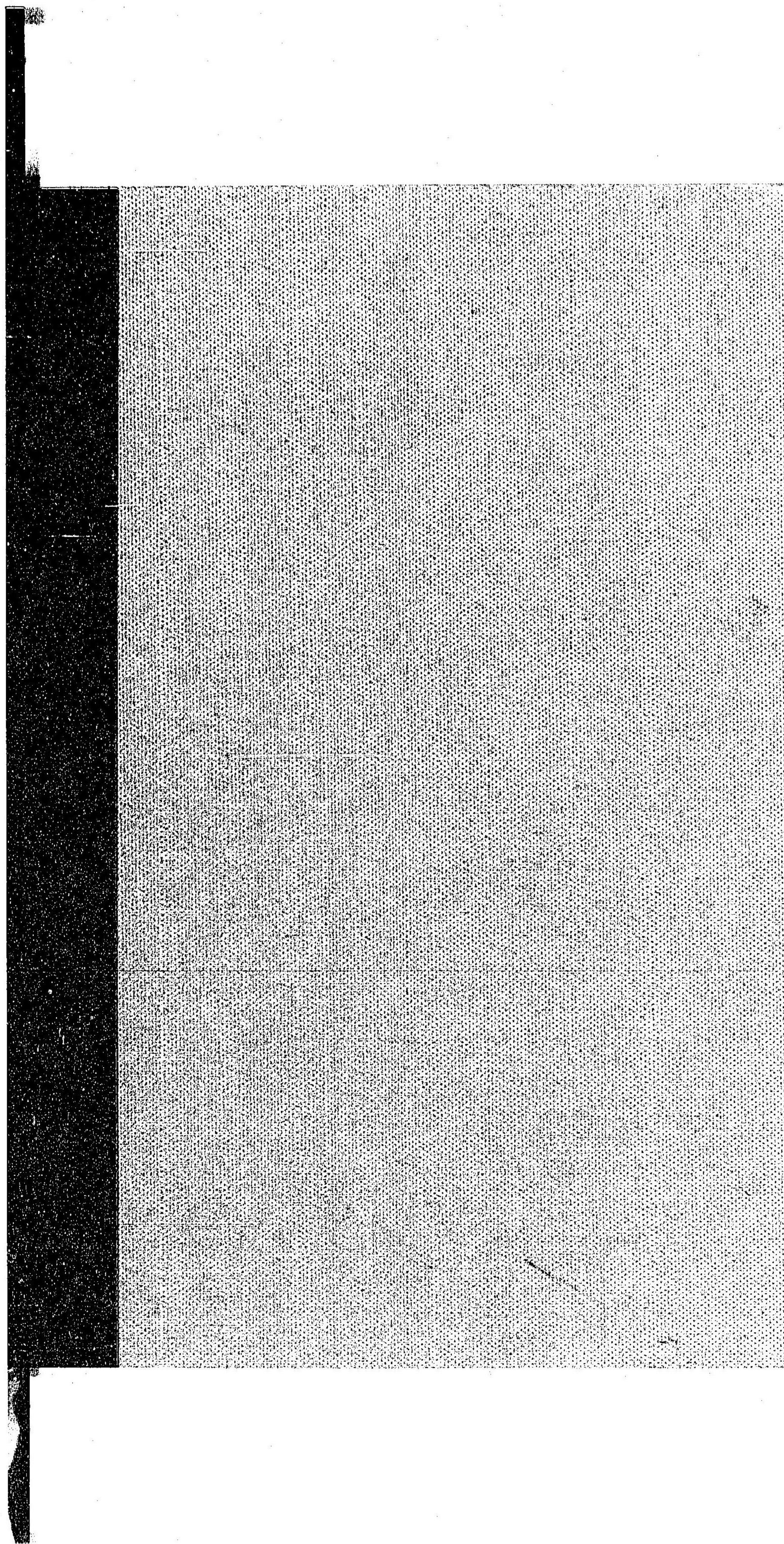
井 水 兼 藏

大分縣大分郡大分町八百八拾九番地

印刷者 安 部 春 吉

大分縣大分郡大分町八百九拾壹番地

印刷所 大分活版合資會社



徵 発 法 令

国立国会図書館

CZ
675
025

禁電子式複写

039000-000-8

CZ-675-025

徵発法令

安藤 亀五郎/関

M28.3

BCC-0228

